へ13
3815
7

門へ13
3815
1
虫損

櫻莊子後日文談四編

並木五柳綴
假名垣魯文校
錦朝樓芳虎画
錦橋堂壽梓

往時亥の秋市川米升初て當吾の新狂言の名詮自性の當りをとる。弁まをぢらりと赤かくし。一世の名誉のあやらんと。當様主の錦橋堂。余が亡師花笠翁の話しを草紙に物せしも。櫻莊子の夢より間もなく光陰さる夫の霜ぢらち。星霜あくる十年。変る浮世の替らぬ脚色。そが上役者亜工よりち。先例通りの注文。唯編者の又同人ならばと。せめて餘流の僕が。名目とのせんと貝汐負の引立並木全盛の精好を毎編汚まを序文の拙筆。是も師匠を笠に着て。花の大樹の蔭ならんと。五挿が孔の端を仮て

文久元辛酉秋　浅草寺のうらは長屋み

假名垣魯文記

浅倉當吾
難波村右エ門

此圖ハ甚兵衛當吾を助け
八重門を討とる編あり
渡守船人甚兵エ
鬼切丸短刀

博労町宿屋の場

月三日いきれ
月桑
講中
太々講
浪花講

つき
高津村の場

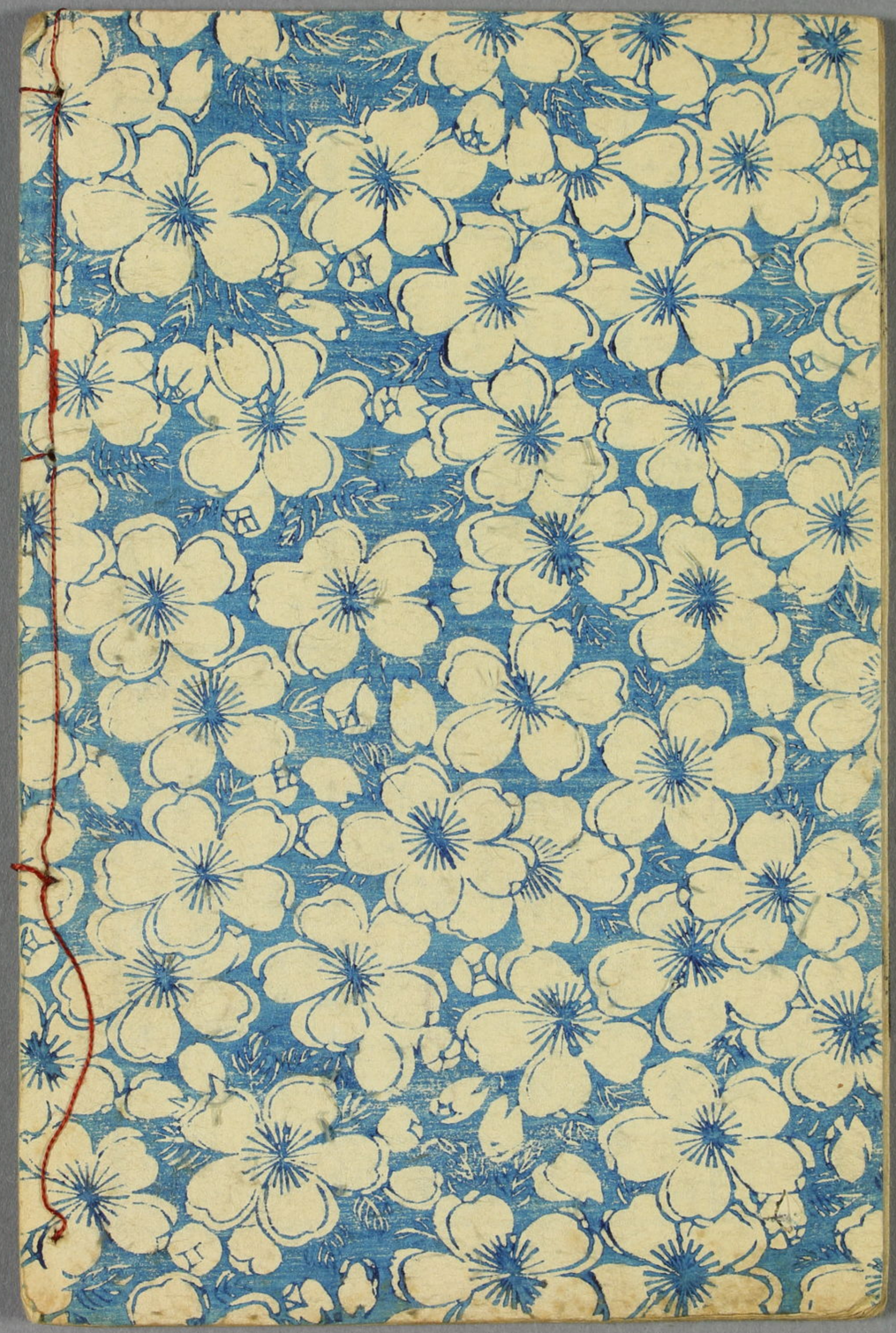
つぎは
あの人でもあるまいとおもふたのもあらいあのとおもひでもあるまいとくるを
ひさまのくるまのうちのあの人
ぶんみのきりぎすでつれんとうつをきろくとうるがせうしせんもん
この
ハ
ちうがいの人とをもしいきのそもよりぶさうなるあのごみあるをのてもえんくとたんをとらふりのへるらちちみのごとちるごきとうるをうろえてくるへこちのひとこのろをもをつのとをまりこーてのこんがうをろうろうえまどそのちろをとこのやくあるうろどるもいやよきをとこどやあいとやりとやろ
ハ
ちうちまのあをーで「イヤもうとえらまねとをどのみせんとあひきへををきろくあるど」
つぎへ

五柳綴

魯文校
芳虎画

口中ヒヤ
御薬 固齦散 大色代百銅 小白代三十二銅
功一ぬりの色 一うるみ色
能一ねつを一とる
用ひやすく効あり

清浄 精製 白妙 一色代 廿二銅
中へあげて入れ用ゆれば色白くなること

寝小便大奇薬 一色代 三百銅
ねこぶ幸久丸 疝癪虫も大人小児男女とも一色にて治る験筆あり

無病長壽 養生手引草 全二冊 京山翁著 廣重画
美玉百人一首 中本形 全一冊
紅梅百人一首 半紙本 全一冊
離鶴姫湯壽 紅摺大本
女中用文玉手箱 中本形 京山翁著
敵討白石噺 全二冊
伊賀越敵討物語 全二冊 芳虎画録
源家武勇鑑 二編 秀賀校合
三編 芳虎画録
足利絹手染紫 二十編 金水作
二十編 國貞画